

論 說

我國の鹽業政策

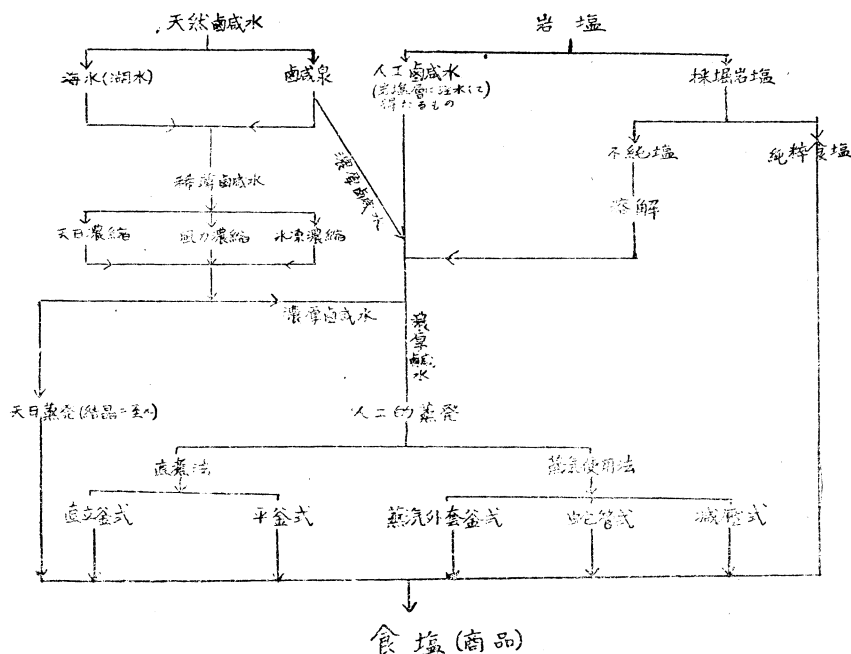
工學博士 西川 虎 吉

食鹽は食料即ち人畜營養素の一分分として必須の物たるのみならず工業原料即ち所謂曹達工業に於て智利硝石を除きては殆ど唯一の原料なれば一國々民の健康を保持すると同時に其の國產業の基礎たるべき曹達工業の盛衰上甚だ重要な關係を有するものなり故に古來人種の如何文明の程度如何に論なく各民族共に採鹽の術を講ぜざるものなし然るに食鹽の產出狀態は各地一樣ならず從つて夫々獨特の發達を遂げ以て今日に及び就中本邦の如き今尙原始的方法を踏襲するに過ぎざれば宜しく之が改良を計り將來工業用食鹽需要増加の時運に適應する施設を講ずることは蓋し目下の急務なり

食鹽の天然に產出する狀態に二種あり一は固形態にして岩鹽と稱し他は水溶液即ち海水、湖水、又は池水、井泉等に溶解して存在するものにして一般に鹹水と稱す岩鹽は普通金屬鑛石又は石炭層の如く地下に埋沒せられ居るものにして鑛山探掘と同様の方法にて採集せらる然るに本邦には未だ岩鹽層の發見せられたるものなし地質學者の研究に依れば本邦の地質にては岩鹽層の存在殆ど不可能なるものゝ如し是れ我國製鹽業の歐米諸國と大に事情を異にする所以なり

又天然鹹水としては湖沼に食鹽を含有するもの尠からず特に或るものは可なり濃厚なるものあり又鹹井泉として地下水に食鹽を可なり多量に含有するものを噴出する所あり然るに本邦にては未だ工業的に利用せらるゝ程度の鹹水存在を見ず是に於て本邦唯一の食鹽採集の源泉としては海水を撰ぶの不得止狀態なりとす然り而して岩鹽又は鹹井に就て主として發達せる歐米輓近の製鹽業は直に以て本邦の範となすべからず之れ吾人特別の研究を必要とする所以なり

今製鹽術の沿革を略述せんに古代の製鹽法は海水を盛りたる器物を天日に曝露して蒸發するか或は鹹水を陶器製の壺にて蒸發せし



め更に時としては柴薪に火を點じて猛火の起れる所に鹹水を撒布して食鹽の蓄積するを待つて之を採集する等何れも不完全なる原始的製法なりしが十八世紀の末葉より十九世紀の初期に至り稀に工業的に改良せられ天日蒸發及び加熱蒸發等順次進歩の徴現はるゝに至れり殊に岩鹽採掘工業は僅々數十年以來の發達とす

今世界に於ける食鹽採集法の現況を圖示すれば次の如し
本邦の如く岩鹽及び鹹水を有せず海水を唯一の原料とする製鹽業の見地より左に其の操業工程を説述す可し

海水の濃縮、海水は鹹水としては甚だ稀薄なるものにして平均一〇〇分中三・五の固形物を含み其の中食鹽分としては二・五其の餘分は鹽化苦土、硫酸苦土、硫酸石灰、鹽化加里、臭化苦土等の不純分を含有するものなり故に海水より食鹽を採集するには先づ最初之を濃縮せざるべからず而して其の濃縮方法としては食鹽の飽和溶液の濃度までは豫め費用のかからざる經濟的方法を取り天日、風力又は凍結等の自然力を應用して濃縮するを普通とす

近時海水を直接火力を用ゐて蒸發する方法を講ずるの計畫あり之れは從來一般に不經濟なりとして顧られざりしものなり素より多量の燃料を使用して蒸發濃厚ならしむるは不經濟にして天日風力等の自然力を利用するに如かずと雖此の自然力利用は

天候の良否に依て生産量を左右せらるゝものなれば時に豊凶の差大なるものあるを免れず是に於てか此の直煮方法を攻究する事亦今日に於ては無意味の事業に非ざるべし食鹽供給の確定を得んと欲せば天候の良否に關せず必要量の食鹽を採集する方法なかるべからずと信ず

自然力に依る海水濃縮方法は氷凍法、枝條架法、鹽田法の三とす

氷凍法とは海水が氷結する際には先づ水分氷結し後に含鹽量に富む海水を殘留す故に適度に氷結せしめて氷片を除去する時は順次濃縮す此の方法は寒帶地方に於てのみ實行せらるゝものにして特別に起寒裝置を設け人工的に氷凍法を應用するは到底收支償はざるべし本邦の領土に於て試むべき地方は朝鮮關東洲等にして其の結氷期に是が實行難からざるべしと考ふ

次に枝條架法は萬里の長城の如き數哩に渡る高架に枝條を積重ね稀薄なる鹹水を流下せしめ主として風の蒸發力を利用する方法にして大陸地方の如き一定の風位が長期間吹き續き且つ空氣の乾燥せる地方にのみ行はるゝものにして本邦の如き既に二三地方に試験的に試みられたれども未だ好成績を擧ぐるに至らず

是に於てか本邦は古來より唯鹽田法を採用せるものなり即ち十州鹽田の如き入濱法及揚濱法等何れも廣漠たる土地面積を要し加ふるに時間と人工を要する事亦多き原始的方法なりとす此の鹽田法を採用せるは素より自然の勢にして他に適法を求むるの必要感ぜられざりし時代なりしも今日食鹽の需要日に増加し食料及工業兩方面に於て年一年増額を必要とするの趨勢に向ひつゝあるときに猶此の原始的方法に甘んじ古來地價安價にして勞銀の低廉なりし時代に用ゐたる方法を今日猶踏襲するは此の貴重なる食料と工業原料との供給を信賴するの術に非らざるべし

以上陳べたる如く我國食鹽の供給方法は海水よりする原始的鹽田法にのみ依り天候の良否に依つて其の產額に豊凶ある爲めに國民は不安心なる供給に甘んぜざるべからざる状態なりとす工業原料なる食鹽の供給に於ては明治三十年即ち日清戰役後迄は専ら鹽田方法の生産物を用ゐたりしが臺灣島の我が領土となるや同島に於ける天日製鹽方法の產物が品質優良にして其の生産費低廉なれば曹達事業に於て之を利用するの徳用なるを認めたり余は當時日本舍密製造會社(山口縣小野田)に在りしを以てルブラン式曹達原料として臺灣鹽を應用せしものなり爾來我國の工業鹽は専ら臺灣產天日鹽を使用することゝなり比較的高價にして品質劣等なる内地鹽田產鹽を使用したる時代より遙に良質の曹達を製造し得るに至れり

抑も天日製鹽なるものは約一千年前伊太利に於て發明せられたる方法にて地中海の沿岸地方に行はれ東洋に於ては清朝の初期一傳道師に依り支那に傳へられ康熙帝の獎勵に依り支那各地の沿岸に試みられ次で臺灣にも傳へられたるものなり此の方法は少しも燃料を使用せず日光及風力のみを利用して食鹽を結晶せしむる方法なりとす故に自然力利用の製鹽法としては最も安價なる方法なりとす明治三十七八年の日露戰役の結果我國の勢力範圍に屬したる關東州は又大に此の天日製鹽に適當なる地なるを以て明治四十年以後關東州に於て我國民の天日製鹽業を企畫したるもの多く幾多の變遷を経て遂に今日の大日本鹽業株式會社なる一大製鹽會社となり内地製鹽の不足額を供給するの便を得たるなり

又最近歐洲の大戰に依り我國の勢力範圍に歸せんとする青島の如き亦天日鹽產地として臺灣關東州等を凌駕する位の良好なる地域なり今後の開拓に依つては一大產鹽地と成るを得べし又朝鮮の我國に併合せらるゝや既に其の以前即ち韓國時代より同國の食料鹽は不足せしを以て天日製鹽方法の試験を行ひ近年其の成績の慥かなる事を認め同國の食鹽供給の一助たるを得るに至れり

如斯我國に於ける食鹽の供給は明治三十年迄は専ら内地鹽田方法にのみ依りしが臺灣、關東州、青島等の我が勢力範圍に屬するや其の天日鹽を以て吾人の需要に供せらるゝに至り内地產鹽の不足は幸に補給せらるゝの便を得たり就中工業鹽に至りては殆んど全部天日鹽のみを利用すと言ふも差支なし若し不幸にして臺灣、關東州、青島等の屬地なかりし時は如何にして内地鹽田のみにて食鹽の供給をなさんとするも亦不可能事とす於是明治三十七年より實施せられたる鹽專賣法なるものは如何に我國食鹽供給に與つて力ありしかを考ふる時は又大に議論なきを得ず

抑も鹽專賣法實施の時代は日露戰役の爲め財政上不得止の税法なりしならんが其の目的とするところは千萬圓以上の收入を得んとせしに外ならず同時に附帶利益としては第一鹽の品質を一定にすること、第二外鹽の輸入を防止すること、第三製鹽方法の改良即ち安價に多量の製鹽を爲さんとするこゝ以上三目的の第一第二は慥かに成功せられたり即ち專賣法實施前の我國食鹽の品質は不同惡質にして今日の如く等級を以て區別せらるゝが如きことなく使用者をして不便少からざらしめたり此の點に於て專賣法は慥かに効能ありしを認む

然るに第三の目的に至りては不幸今日迄十數年間の久敷該法實施せらるゝと雖も未だ生産費の低減產額増加の著しきもの無し之れ誠に不可解の事實なりとす其の理由として考へらるゝものは例令ば專賣局試験場に於て試験せられたる製鹽改良成績も報告發表せられ

つゝあるもの多きに拘らずこれが實行を見ざるは實に不思議の一事項なり聞く處に依れば專賣法は收支の税法にして産額獎勵の税法に非らず專賣局は收入局にして産業獎勵の局に非らずとか然らば宜敷農商務省に交渉して是れが實施を獎勵せしめて可なり然るに農商務省にては鹽は大藏省專賣局の任務として一切關係せられざるものゝ如く誠に吾人局外者より觀れば此の間國家的觀念の有無を疑はしむるものあり如斯くして製鹽業の發達は幾年黃河の清を望むに等しく今日まで何等著しきものなき所以なり

又一方鹽業者は毎年十二月定めらるゝ處の倍償價格に於て満足し袖手安逸時勢の進運と伴はず只に倍償價格の一厘にても高からんを望み最近二三年の如き政府に於ても物價騰貴の不得止ものとして倍償價の改正を行はるゝ事漸々以て製鹽業者に満足と與へつゝあり鹽業者は何を苦んで製産費の低減を計るに苦慮するを要せんや生産費高まれば即ち倍償價を昇騰せしめらるゝの便あれば鹽業者は損をする心配なしに製鹽するの利ありとす是れ專賣法の不得止ものとするも亦以て食鹽供給の國家萬年策に非らずと謂ふべし

近年食鹽の不足を訴ふること甚しく地方に依りては漬物に用ゐる食鹽無しなど國民直接日常の食料にまで不足を感じるに至りしは事實にして米價騰貴の爲め米騒動を起して國民生活問題に懸念せしめつゝある一方米に次で必要缺くべからざる食鹽の缺乏は更に一層國民生活を脅かすもの多し況んや工業鹽に於てをや是に於て近時鹽專賣法を攻撃するもの多く有識の爲政者にして尙急に專賣法廢止論を稱ふる人あり余は鹽專賣法は決して良税法とは考へずと雖も今日之れが廢止は又大に考慮すべきものなりとす此れを廢するは既に時機を失したり余は十年前これを廢すべきものなりと信ず人あり曰く今日諸物價昇騰に關せず鹽は一番安價なり是れ專賣法の恩澤なりと然り專賣法無かりせば食鹽の價格は今日の幾倍なるかを知らず今急に專賣法を廢し需要供給の不均衡のまゝ政府が手放さば無論價格の何處まで昇騰するやを知らざるは經濟上明瞭なるものなり今日の如き需要供給の不平均を來すまで是れが補給方法を講究せず最も原始的鹽田法の保護に等しき專賣法を持續したるの罪は又誰にかある歴代の政府にして鹽專賣法を只收入本位の税法とし食鹽の需要供給の推運に意を用ゐざりしに基けるの結果たらざるを得ず

今左に現在に於ける我國の食鹽需要供給の狀況を表示すれば

現在鹽田面積生産額及消費額表

| | 鹽田面積 | 生産額 | 消費額 | 生産と消費との差額 | |
|-----|---------|--------------------------------------|----------------|--|--------------|
| | | | | 過剩 | 不足 |
| 内地 | 五、七四〇町 | 一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 一、一八七、〇〇〇、〇〇〇斤 | — | 一八七、〇〇〇、〇〇〇斤 |
| 關東州 | 四、一五〇町 | 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 六〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 一四〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | — |
| 臺灣 | 一、八九〇町 | 二〇〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 六三、〇〇〇、〇〇〇斤 | 一三七、〇〇〇、〇〇〇斤 | — |
| 朝鮮 | 四、一〇〇町 | 一三〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 三二〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | — | 一九〇、〇〇〇、〇〇〇斤 |
| 青島 | 一、九九〇町 | 一二〇、〇〇〇、〇〇〇斤 | 六、〇〇〇、〇〇〇斤 | 一一四、〇〇〇、〇〇〇斤 | — |
| 合 計 | 一七、八七〇町 | (一、六五〇、〇〇〇、〇〇〇斤) (一、四四〇、〇〇〇、〇〇〇斤) | 一、六三六、〇〇〇、〇〇〇斤 | 三九一、〇〇〇、〇〇〇斤 (故に差引過剩額僅に一四、〇〇〇、〇〇〇斤なり) | — |

生産額は現今に於ける最高額を示せるものにて括弧内の數字は天候不良製鹽不作時の産額を示すものなり此場合生産額と消費額との差は正に一億九千六百萬斤の不足となる

前表の如く豐年作に於ても尙僅少の過剩額を見るのみなり幸に朝鮮の食鹽供給は某國の密輸入の數量可なり多量なるものありて僅に吾人の食鹽供給の平均を失はざらしめたり故に一昨々年の如き内地鹽の凶作甚しき年に於ては又他に急に供給の途を講ずるに非れば食料に不足を來すは勿論工業鹽の如きも亦非常手段を講ずるに非れば工業の持續を難からしめたり前表に示せるが如く平時豐凶の差に於ても既に二億斤の差あり然るに需要に於ては依然として減ずる事無く年々増加するのみなり夫は食料鹽に於ても明なる事實にして今我國人口増加毎年五〇萬と稱せらる而して我國民の食鹽消費額は比較的多量にして一箇年約一人二〇斤とすれば一千萬斤の増額を要するものなり即ち十箇年約壹億斤の増額を要す我國食鹽需要額の統計を顧みるに正に今より十箇年前と今日との食鹽の需要額に於ても明瞭なりとす而して其の産額に於て果して幾何の増額ありしや幸に臺灣關東州最後に有力なる青島の天日鹽の我國勢力範圍に屬したればこそ今日迄前表の如き危険なる状態ながらも吾人の需要を滿しつゝあり斯の如き状態のまゝ將來の方針も立てず今日急に專賣法を廢止せんか其の結果米騒動以上の鹽騒動は免るべからざるべし實に寒心に堪へざる次第なり余は既に明治四十一年の頃工業鹽並に食料鹽の不足を訴ふるの時代近きにあるを憂へ製鹽改良の急務なるを唱へたりしが遂に顧みられざりき幸乎不幸か青島鹽の

我手に入りし爲め戰時中僅かに不足額を供給し來りしも遂に今後は一日も忽にすべからざる問題として調査攻究せらるゝの時運に向ひたるを大に喜ぶものなり

我國の食鹽供給を安全ならしむるには天候に關せず海水より一定額の食鹽を製造する經濟的方法を研究する事最も必要なりとす然りと雖も此の方法は今後猶幾多の研究と實驗とを要すべし海水直煮の法にして動力發生と連結したる一般法の如きは大有望にして現今の如く動力を得るに非常に困難なる土地に於ては宜しく動力發生を伴ふ製鹽業を營むは最も策の得たるものとす然れとも其の生産食鹽の價格は食料鹽としては猶忍ぶべきも工業鹽としては高價にして天日鹽の安價なるに及ばず依て海水直煮法の動力發生に伴へるものを奨勵し食料鹽供給の一助たらしむる事は天候に關せず製鹽し得るを以て產額確實なれ共一方動力發生に伴ふものなれば動力の多寡に依つて製鹽量を制限せらるゝの不便あり單に此方法のみを以て製鹽全部を委すべからず是に於て余は工業鹽及食料鹽の爲め今日最も安價なる天日鹽田の擴張を計り其の生産額の相當確實に成りたる曉に至り鹽專賣法の廢止と同時に内地鹽田を國有計營とするの策を獻ぜんとす而して今後天日鹽田擴張の區域を考ふるに余の視察したる所を以て左の如く計畫せんとす

各地鹽田擴張適地面積及生産額

| | 面 積 | 產 額 |
|-------|-----------|-------------|
| 臺 灣 | 壹 千 町 | 壹 億 斤 |
| 關 東 州 | 六 千 町 | 參 億 斤 |
| 朝 鮮 | 五 千 町 | 貳 億 五 千 萬 斤 |
| 合 計 | 壹 萬 貳 千 町 | 六 億 五 千 萬 斤 |

臺灣鹽田適地面積は凡そ二萬町以上あるも既に養魚地として利用せられ地價も可なり高價を稱へらるゝ故に之を鹽田に改良するは經濟上不可能に屬す従つて現在に於ける適地としては先づ一千町なりとす

關東州に於ては猶鹽田と爲すべき地域多しと雖も其の生産鹽の搬出に便なるを考ふれば先づ六千町歩位とす

朝鮮に於ては未開拓の地多く將來鹽田として有望の地域は先づ五千町歩なれ共是は朝鮮總督府に於て鹽田保留地として他の目的に使用を許さざるの方針なりと聞く尤も從來は總督府以外に一切鹽田の開發を許可せざりしが近時此保留地以外に於て鹽田を開拓し其の製鹽を原料とする産業を營むものには特別許可すべく改められんとするの方針なりとは一大進歩にして國家の爲め慶賀すべき事と

す元來朝鮮は自己の食用鹽にさへ不足して他より補給せられつゝあるなれば總督府は徒らに鹽田適地を保留して自らも實行せず人にも使用せしめざるが如き事をなさず宜しく官營として進むか又は民業として此を許可すべきかを決定し一日も速に食鹽自給のみならず安價なる食鹽を内地に供給するの道を講ずべきなり余は民間事業家に是を獎勵實行せしむるを以て急務なりとするものなり

鹽田適地としては、臺灣、關東州、朝鮮よりも遙に優良の青島あり青島の我勢力範圍に入らんとして未だ確實に決定に至らざる爲め余は特に鹽田適地擴張面積として算入せざりしが現今に於ても青島鹽有るが爲めに内地需要の不足を補給せらるゝもの、多く將來に於ても鹽田適地として開發すべき地域甚だ廣大なれば食鹽生産の五、六億斤を得る事又難事に非ざるべしとは衆人の認むる所なり青島問題解決の如何は我國食鹽の供給上一大影響を與ふるものと知るべし

余は此處には青島問題の未決の今日是を計算に入るゝを避け臺灣、關東州、及朝鮮の三地に依て國家萬年の策を講ぜんとす幸に青島鹽田區域が我勢力範圍に屬するを得ば前三地の擴張面積を減じ宜しく青島に於て擴張を進むべきものとす

以上陳べたるが如く天日製鹽田の擴張區域は可なり豊富なれば安價なる食鹽を確實に得る最も易き方法として是を選ぶべきものとす余の意見にては今後五箇年即ち大正十四年迄に我國の食鹽需要額は食料、工業兩方面に於て二〇億を數ふべし是が供給を計るには宜しく今より五箇年計畫を以て前陳の擴張工事を實行せざるべからず斯の如くして天日鹽產額の増加を確めたる後速に專賣法の廢止を爲すべきなり然るに天日鹽の產額を増加すれば自然の勢として内地鹽田の高價なる食鹽と競争を來し專賣法の保護なくては内地鹽田の存立は難かるべし従つて專賣法の廢止實行上に於て内地鹽業者の反對議論を起し政黨上の争となるを免れざらん余は我國食鹽問題は政黨の勢力問題として争はるゝ如き問題に非ず宜しく國民一致何れの政黨に於ても國家問題として公平に考へらるべきものなりと信ず然れども内地鹽業者の自滅を傍觀すべきに非ざれば是が救済策亦なかるべからず而して内地鹽田の產物は又一種の特徴あれば我國民の嗜好上全廢すべきものに非ず即ち現在產額の半數は其の存立確實ならん故に有名なる產地は之を保存し將來其の製造方法の改良を計り以て食料鹽供給の有利なる特種工業として存置すべし然り而して五箇年後に於て專賣法を廢止すると同時に内地鹽田を國有として計畫せば鹽業者に於ても何等問題の起るべき障碍無く國家萬年の策を立て得らるべしと信ず素より現在の鹽田中生産費の多額を要し品質良からざる土地無きにしも非らざれば此等は鹽田整理に依て政府が整理する事も出來得べく又國有として整理するとき

は現在の鹽田を米麥桑田とし又は工場敷地として利用せられ得る土地も少からざれば何等憂ふべきの問題に非ざるべし内地鹽田國有

は鹽田所有者に短期公債を交付し置き毎年收入の確定を待ち順次償却するものとす故に此の政策は國家の財政に毎年一定の收入を與へ幾年の後は國債償却を完済して國家の殖産に確固たる保證を與ふるものたり現制度の如き專賣法、鹽田地主、小作人の三階級あるは斯業改良上の一大障礙たるのみならず制度上の經費も亦無益に多きを加ふるのみなり今國有制を採らば正に現制の經費を節ずることを得べし

以上述ぶるが如く我國鹽業の困難なる事情存するものあれば既に政府にても屢々鹽業調查會等を起し調査研究せらると雖も未だ満足なる方法を得ず在再今日に至り前途尙遠なるものあり由來我國鹽業經營を考ふるに内地に於ては風土氣候素と採鹽に好適ならず世の進運に連れ勞銀と石炭とは年を逐て昂騰し内地鹽業の維持將に危類に瀕する時に當り專賣法施行の爲救済せられつゝあるの情況なるが一方殖民地に於ける天日製鹽事業は風土氣候共に採鹽に好適なれば其の製産費の如き素より内地鹽に比し非常に低廉なりしが現今に至り逐年其の生産費の昂騰を來すの傾向あるは誠に遺憾なりとす其理由を考ふるに現今實行しつゝある各地天日製鹽業は其の土人の從來經營せる方法を我が母國人が模倣したるものにして其の模倣の方法たるや何等の考慮なく唯小なる手本を大なる資本にて擴大したるのみなれば化學上の考も無く又機械的の考も加味せられざるの狀況なり要するに製鹽事業を見る事尙農業を見るが如き感あり即ち現行製鹽制度は支那に行はるゝ小農式小作式に據りたるものにして今日の大資本的事業としては經濟組織に對し缺陷あるものなるべし

我國の農業に於ても常に余は餘りに原始的方法を何時迄も踏襲しつゝあるに非ざるやを疑ふものなり開闢以來一人一本の鋏を使用して今日に至れるは誠に不思議なり何故に一人數本或は數十本の効力を顯す方法に出でざるや鹽業に於ても亦然り今日迄農業的而も小農的に據りて猶一人一本鋏式の方法たるを免れず彼の關東州に於ける一大資本を投じたる一大會社の如き事業は正に新式株式會社なれども其の採鹽方法に至りては依然として小農式たる域を脱せず即ち單に資本の増加に伴ふ小農式鹽田の逐次増加に外ならず従つて産額は増加すれ共其の生産費を減する事能はず寧ろ昂騰の傾向あるを免れざるなり宜しく近時倍々發達しつゝある科學的方法及機械の使用に依り經濟的組織の完全を期するを得ば大に面目を改め生産費の如きも現今より遙に低廉ならしむる事難事に非ざるべし換言すれば我國鹽業をして工業化せしむるの必要を痛切に感ずるものなり

要之するに高價なる生産費を要する内地鹽田を何時迄も保護するの方針を止め現在に於て最も安價なる天日鹽田を擴張し其の産額

の慥かなるに至り專賣法を廢し同時に内地鹽田を國有とし食料鹽幾分の補助供給を爲さしめ工業鹽は専ら天日製鹽にて供給し尙食鹽を原料とする工業者には天日製鹽田の自營を獎勵し現在の如き專賣法規上の取扱の煩を免れしめ一方製鹽方法の改良を計り農業式を革め工業的方法に據らしめ以て用途に應じ品質の改良價格の低廉を講ずる事今日の急務とす

以上卑見を述べ識者の教を乞ふものなり

(大正九年一月稿)

炭化水素の熱分解(其一)

工學士 中川芳之助

川合誠治

總 論

炭化水素の熱分解に關する研究は

(一)原料及生成品の分析方法(パラフ^{ヘン}系炭化水素類中に混在する芳香族炭化水素及不飽和炭化水素の定量又は反對にペンゾール^ル類中に混在するパラフ^{ヘン}系炭化水素類並びに不飽和炭化水素の定量)並に芳香族炭化水素と石油炭化水素との分離方法

(二)炭化水素の熱分解(所謂一般のクラッキング法其他ハイドロ・デエネ^{イシオン}、デハイドロ・ヂェネ^{イシオン}等を含む)

(三)炭化水素瓦斯中に含まるゝ有用炭化水素蒸氣の回收方法

の三問題を含むものにして(一)は芳香族炭化水素を含有する石油よりトルオール等の抽出に(二)は天然瓦斯よりガソリンの採收及石炭瓦斯並にオイル瓦斯等よりペンゾール、トルオール等の回收に各々工業上の應用を見何れも單獨に研究さるべき價值を有するものなり

而も是等諸問題は互に相關聯する事深く(一)の分析法は(二)の研究の學術上の價值に關係し(三)の研究の不備は其工業上の價值に